

みずほオートリース通信

2025年 4月号

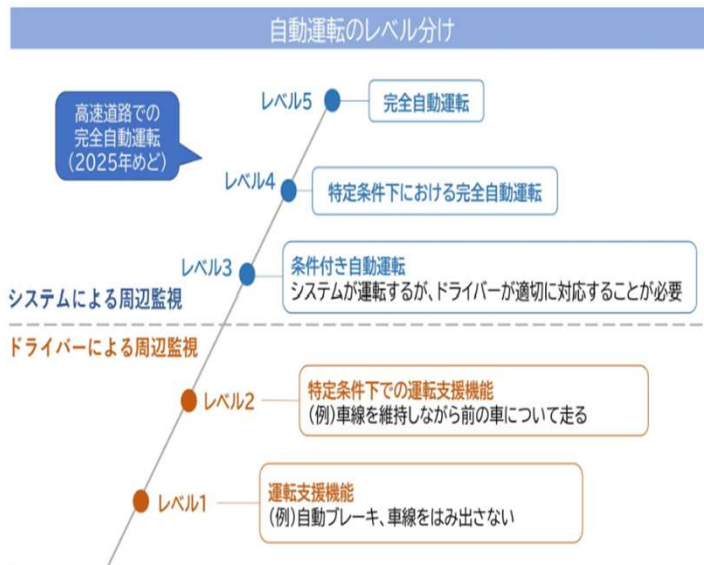
「2024年問題」解決のカギとなる自動運転はどこまで進んでる？

レベル4に向けて進む実証実験

「働き方改革関連法」によってトラックやバス、タクシー運転手の時間外労働時間の上限が2024年4月から年960時間に規制され1年が経過しました。物流・人流の「2024年問題」とも言われ、公共交通やトラックなどの輸送力低下が懸念され、問題解決のカギを握るのがトラックやバス、タクシーなどの自動運転化です。国内自動車メーカーなどは、実用化を目指して、各地で実証実験を進めており、その多くは2027年度にかけて実現する見通しです。

＜自動運転レベルとは＞

自動運転はレベル1から5まで、5段階に区分けされています。レベル3となると、一定条件下で周辺監視の主体はシステムに移りますが、緊急時など必要に応じてドライバーが操作することになります。レベル4になると、ODD（運行設計領域）の範囲内ならドライバーが不要となります。ODDとは地域特性、道路の種類、速度範囲、天気、時間帯に応じて自動運転車両のセンサーやソフトウェアが安全に作動するように設定された領域のことで、「2024年問題」の解決が期待されているのはレベル4での自動運転技術です。



＜トラックの実証実験＞

2025年3月、高速道路におけるトラックの自動運転化の実現のため、関係省庁、中日本高速道路(株)にて、深夜時間帯に自動運転車用の優先レーンを設定し、レベル4自動運転トラックの実証実験が行われました。パーキングエリアから発車して車線変更や渋滞、緊急時への対応などを経て駐車するまでの一連の流れを、高性能センサーと制御システムだけで行うものです。安全性の確保など、自動運転トラックの将来が注目されます。



高性能センサーと制御システムを搭載した、いすゞの大型トラックの自動運転車両

画像、出典：下記資料、ウェブサイトを参照し、一部引用のうえ当社で作成。

国土交通省プレスリリース「新東名高速道路における自動運転トラックとインフラとの連携に係る実証実験を開始します」

経済産業省ウェブサイト：自動運転で「2024年問題」解決！国内メーカーが目指す「レベル4」のトラック・バス・タクシーとは

<https://journal.meti.go.jp/p/34928/>

4月より車検を受けられる期間が延びます！

車検は1か月前から2か月前へ変更

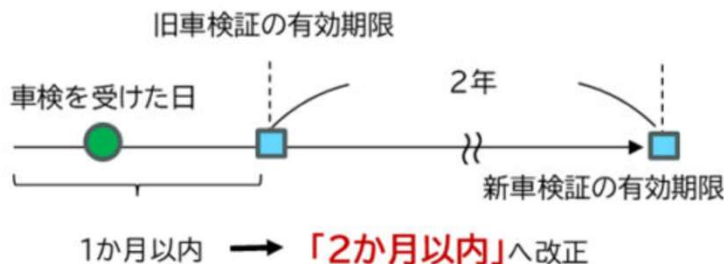
道路運送車両法施行規則の改正により、2025年4月1日付で車検の受検可能期間が拡大されました。現行の施行規則では、車検の受検可能期間について、有効期間満了日の1か月前から満了日までと定められていますが、改正後は有効期間満了日の2か月前から満了日まで受検することが可能となります。

車検有効期間は、「満了日の2か月以内」に受検しても、残存する有効期間は失われません。また、自賠責保険の有効期間もこれに整合させるため、2か月前から発行できるように改正されました。

車検の受検可能期間の拡大(今次改正)

【現行】 ※自家用乗用車の2回目以降の車検の例
車検証の**有効期限前1か月以内**に受検すると、
新車検証の有効期限を旧車検証の有効期限から
2年間とすることができる。

【改正後】
車検証の**有効期限前2か月以内**に受検すると、
新車検証の有効期限を旧車検証の有効期限から
2年間とすることができる。



出典：国土交通省「来年4月より、車検を受けられる期間が延びます～年度末を避けて余裕をもって受検をお願いします～」

車検の予約は余裕をもって

新車が多く売れる3月と9月、及びその前月は必然的に車検需要が高まります。その為この時期は車検の集中による混雑や自動車整備士の残業などの労働環境が問題なっていました。この問題の解決が今回の制度改正の理由です。

車検を受ける側も希望する日時に予約が取りやすくなり、待ち時間も短縮され、結果的にドライバーにとって利便性が高まることが期待されます。

画像、出典：国土交通省 報道発表資料：来年4月より、車検を受けられる期間が延びます～年度末を避けて余裕をもって受検をお願いします～
-国土交通省 より一部引用、当社で作成

みずほリースグループのEVソリューションのご案内

EVO^{マル}っと[®]

EV導入は単なるガソリン車両からの入替えではなく、お客様毎に最適な運用、充電管理、エネルギーマネジメント等が必要となります。

みずほリースグループでは「EVOっとサービス（読み：イーブイ・マルっとサービス）」を通じて、お客様の課題に対してワンストップのサービスをご提供いたします！

詳しくは弊社営業担当者にお問い合わせください。